



ライフネットは、約20年以上にわたり、世界中で助けを必要としている方たちに援助活動をしているアメリカのNPO団体です。<http://www.lifenets.org/>
ライフネットの願いは、支援者たちが直接助けを必要としている個人、もしくは団体を助ける事により、人々の自立と、そこから更に、より多くの支援の輪を広げて行くことにあります。
NPO団体としての設立以前から、世界各国で様々な活動をしておりませんが、最近の活動の一部をご紹介します。

2011年東北の震災では、アメリカのライフネット創始者であるVictor Kubic(オハイオ在住)から、いち早く支援の申し出がライフネット・ジャパン代表者(高知在住)に入りました。

その後、アメリカを中心とするライフネットの支援者から東北復興への寄付金が集まり、いろんな形で被災者の方たちに届けられました。その例として、実際に家屋を津波で流された障害者の方たちに少額ではありますが、復興支援金として現金が送られました。また、まだ記憶に残っている方も多いかと思いますが、その年の夏は猛暑で、被災地の家電店では扇風機の在庫が無くなったと言う連絡を受け、高知から約30台の扇風機を送りました(写真右)。

その他にも、ライフネットに寄せられた寄付金をつかい、高知から東北に、様々な衣料品・雑貨・日用品などが届けられました。

<http://lifenets.org/japan/>



最近の別の大きな活動としては、2008年頃から援助していたケニアでの学校が今年10月に完成しました。

当初は二人の現地夫婦のボランティア活動により始まった建設計画ですが、ライフネット支援者より多くの寄付が集められ、現在ではこれほどたくさんの子供たちが教育を受けられるようになりました(写真左)。

<http://lifenets.org/johjan/>

別のユニークな活動としては、2012年、ライフネット・南アフリカのメンバーの一人、Neil Wallisが、アフリカ7か国(南アフリカ共和国、ジンバブエ、ザンビア、マラウイ、モザンビーク、ナミビア、ボツワナ)を縦断する、7000kmのカーラリーに参加し、沿道に住む貧しい人々に数百足の靴を寄付しました。(写真右) <http://lifenets.org/rsa/putfoot/pf.html>



2012年夏には、ジンバブエの北に位置するマルバンダという村に、井戸設備の建設の支援をしました。この井戸設備は12年間に渡る地元の人々の夢であり、ひとつの井戸から、500名の人々が飲料水を得ることが出来る様になりました(写真左)。<http://lifenets.org/zambia/boreholenalubanda2012/july22-2012.htm>

ここに示したのは、ライフネットの活動の本の数例に過ぎません。

まだまだ、達成できてないプロジェクトもたくさんありますが、支援者の方たちの熱意により、今後とも、世界中のより多くの人々を援助する活動を目標としています。

ライフネット代表 Victor Kubic